

平成27年12月期

第2四半期決算説明会



平成27年8月20日
大倉工業株式会社

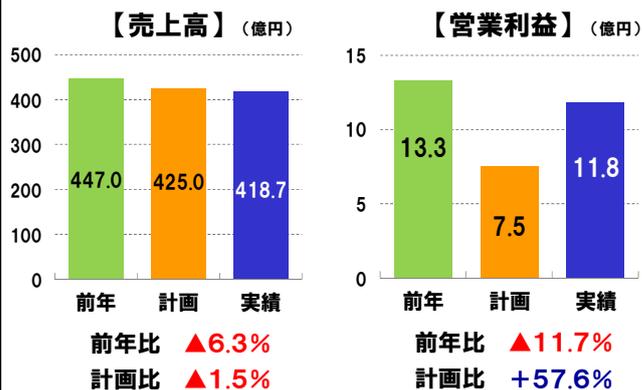
目 次

1. 第2四半期決算の概要

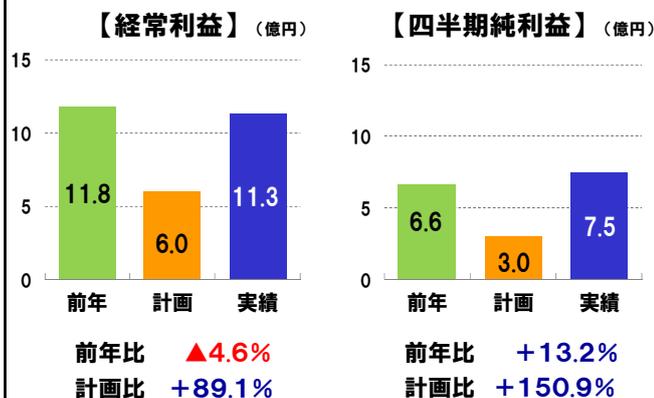
2. 通期の業績予想

1. 第2四半期決算の概要

第2四半期連結累計期間



第2四半期連結累計期間

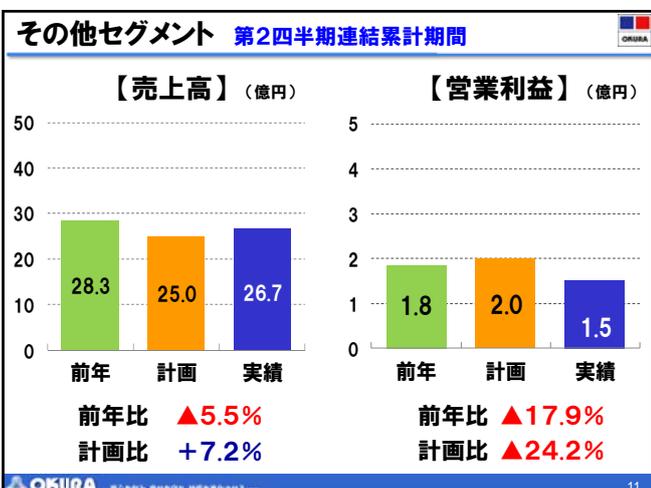
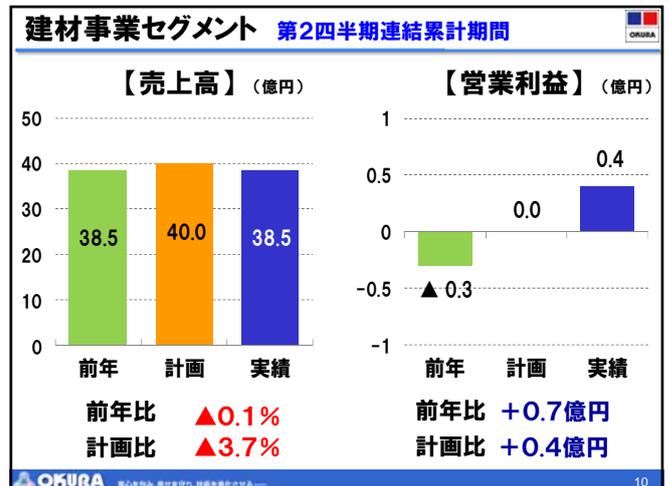
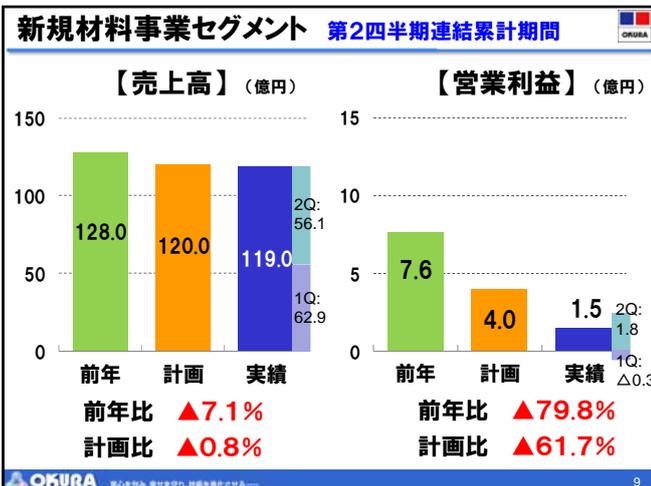
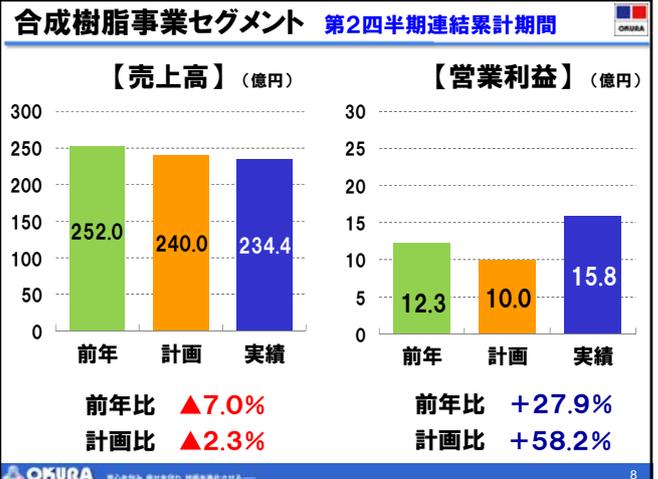


第2四半期連結累計期間

	(億円)				
	H26上期	H27計画	H27上期	前年比	計画比
売上高	447.0	425.0	418.7	▲6.3%	▲1.5%
営業利益	13.3	7.5	11.8	▲11.7%	+57.6%
経常利益	11.8	6.0	11.3	▲4.6%	+89.1%
四半期純利益	6.6	3.0	7.5	+13.2%	+150.9%

売上高は前年・計画ともに下回る。
営業・経常利益は前年を下回るも、計画を上回る。
当期利益は前年・計画ともに上回る。

セグメント別の概要



キャッシュ・フロー

連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	H26上期	H27上期
現金及び現金同等物期首残高	78.3	67.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	13.4	23.3
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲30.0	▲15.3
財務活動によるキャッシュ・フロー	9.5	▲3.7
現金及び現金同等物期末残高	71.2	71.6

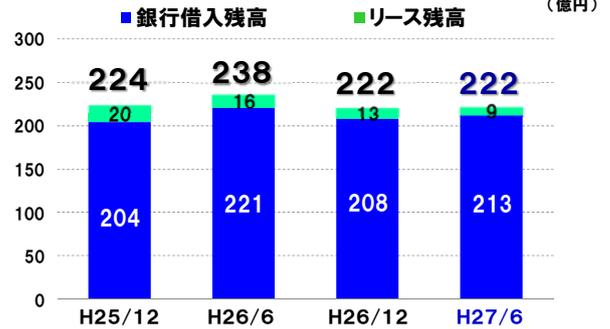
原料値下がり等により営業CFは増加
新工場等の投資が完了し、投資CFは減少

OKURA

13

実質借入金残高(連結)

(億円)



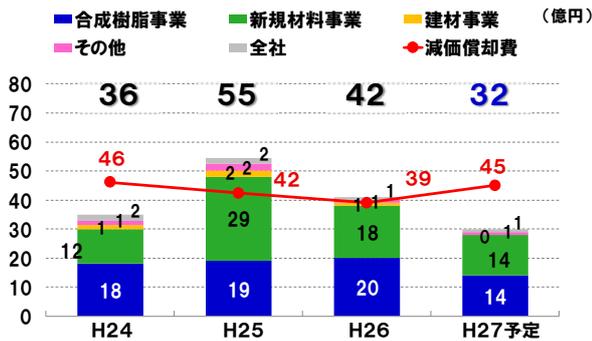
銀行借入は増えたが、実質借入金は横ばい

OKURA

14

連結減価償却費及び設備投資 (工事ベース)

(億円)



前期で新工場建設が完了し、
今期は設備投資額<減価償却費

OKURA

15

2. 通期の業績予想

OKURA

16

通期業績予想

マクロ見通し

足元で景気の下押し要因がでてきたが、
景気は引き続き緩やかな回復基調

売上高

上期は計画をやや下回ったが、
通期ではほぼ計画どおり(前年比+1.1%)

営業利益

下期に原料価格上昇懸念はあるものの
上期の原料値下がりや建材の黒字化により増益

OKURA

17

通期業績予想

(億円)

	前期実績	通期予想	前年比
売上高	875	885	+1.1%
営業利益	21.0	24.0	+14.2%
経常利益	19.6	22.0	+12.0%
当期純利益	17.5	14.5	▲17.6%

営業利益・経常利益は増加するも、法人税法上の繰越
欠損金が解消し、法人税増加により当期純利益は減少

OKURA

18

通期業績予想 売上高

(億円)

	前期実績	通期予想	前年比
合成樹脂事業	497	490	▲1.5%
新規材料事業	244	260	+6.4%
建 材 事 業	76	80	+4.7%
そ の 他	57	55	▲3.9%
合 計	875	885	+1.1%

OKURA 真心をおい、夢を叶え、技術を進化させる

通期業績予想 営業利益

(億円)

	前期実績	通期予想	前年比
合成樹脂事業	21.9	24.0	+9.5%
新規材料事業	11.3	13.0	+14.7%
建 材 事 業	▲0.8	0.5	-
そ の 他	4.5	4.0	▲12.3%
調 整 額	▲15.9	▲17.5	-
合 計	21.0	24.0	+14.2%

OKURA 真心をおい、夢を叶え、技術を進化させる

セグメント別の課題認識

OKURA 真心をおい、夢を叶え、技術を進化させる

【合成樹脂事業】

「量の拡大」の追及と不採算事業・製品の再構築

「量の拡大」を最優先する一方で、再構築と生産技術向上を図る

- 新工場での医療品等の新たな用途分野への拡販
- 不採算製品は採算ベースにのせるため縮小均衡
- 技術の横串機能の充実、事業部全体で生産技術向上

上期:数量減を原料安と価格転嫁で補い増益
下期:原料高の懸念あり。新用途拡販に注力

OKURA 真心をおい、夢を叶え、技術を進化させる

【合成樹脂事業】「量」の拡大

関西オークラにて衛生環境を備えた新工場が稼働



投資額:19億円 H26年6月生産開始
ほぼ計画どおりに立上がり、今後早期にフル稼働を目指す
シュリンクで新たに流通関連(通販等)で拡販中

OKURA 真心をおい、夢を叶え、技術を進化させる

【新規材料事業】

精密溶融押出・精密塗工技術を駆使し、タッチパネル市場での高度な要求品質に対応

投資案件を早期に軌道にのせる

- 仲南G棟は安定的な品質での量産確立
- 新ライン増設による偏光板加工拠点としての工場強化

上期:仲南G棟は遅れながらも量産化に目処がつく
下期:安定生産を最優先に、本格的量産へ

OKURA 真心をおい、夢を叶え、技術を進化させる

【新規材料事業】「質」の追求

液晶ディスプレイ向け光学フィルムの新しい生産技術に対応した工場（仲南G棟）



投資額:33億円
H26年11月生産開始
立上げが計画から大きく遅れたが、今後生産性向上を図り、旺盛な受注に対応

【建材事業】

パーティクルボード事業の本格復興と
建装材事業の構造改革により黒字化へ

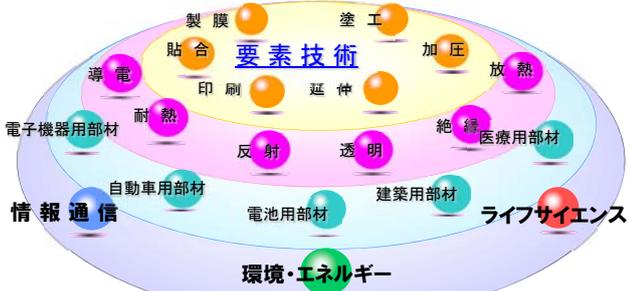
営業黒字化を確かなものに

- 【パーティクルボード】
 - 構造用・フロア製品の拡販によるシェア拡大
 - パーティクルボードの新分野の開拓
- 【化粧板】
 - 数量を確保しながら製販の合理化

上期:パーティクルボードで売上増加と損益改善
下期:フロア拡販と新分野開拓に注力

【R&Dセンター】

要素技術の更なる深化を進め、成長分野での
事業拡大と機会探索



【R&Dセンター】 開発の方向性

伸長が期待される分野に向け開発を進め
事業化へつなげる



業績予想・事業計画に関する注意事項

本資料に掲載されている業績予想・事業計画は、当社が現時点で入手可能な情報及び種々の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等の結果は、今後生ずる様々な要因によって、予想・計画とは異なる場合がございます。